

今回のお話は **香川県**

香川県には「浦島太郎伝説の里」と言われる荘内半島があります。島にそびえる紫雲出山の名前の由来は、浦島太郎が開けた玉手箱から出た紫の煙がのぼった事からついたものだと言われています。



日本の昔ばなし シリーズ

浴用化粧料配合(うるおい成分)

お風呂の香りやお肌のお手入れ

浦島太郎の湯

浦島太郎

無理だと悟ると、
「決してあけてはなりませんよ」と言っ
て、玉手箱を渡して帰してくれました。
太郎が亀に乗り浜に帰ると、太郎が知
っている人は誰も見当たりません。太
郎はさみしくなり、乙姫様から貰
った玉手箱を開けました。
すると中から煙がモクモクと出
てきました。そして、その煙を浴
びた太郎はおじいさんになっ
てしまいました。
童宮城で浦島太郎が過ごした日
々はほんの数日だったのですが、
地上では数百年もの月日が過
ぎていたのでした。



しばらくして家が心配になり
太郎は帰りたいと乙姫様に申し
出ました。
乙姫様は太郎を引き止めましたが
太郎の気持ちは変わりません。



おしひめ

昔々あるところに
浦島太郎という漁師がおりまし
た。ある日、浜辺を歩いていると子どもたちが
亀をいじめておりました。
可哀想に思い、太郎が亀を助けてやると、亀はお礼に
童宮城に連れて行って行ってくれると言いました。
太郎は、亀にまたがり、童宮城へと連れて行ってもら
いました。童宮城にはそれはそれは美しい乙姫様がいて、
太郎を歓迎してくれました。

